

令和6年4月1日

精神科病院 看護部長 様  
教育担当師長 様  
総合病院 看護部長 様  
教育担当師長 様

岩手保健医療大学地域貢献事業企画による  
『医療施設への看護研究支援および人材育成支援を目的とするプログラム』  
のご案内

岩手保健医療大学大学院研究科長  
岡田 実（精神看護学領域・教授）  
E-mail: [mokada@iwate-uhms.ac.jp](mailto:mokada@iwate-uhms.ac.jp)  
☎ 019-601-8571（研究室）

平素より本学の教育と研究にご理解とご協力を賜り、こころよりお礼申し上げます。

この度、本学の地域貢献事業の一環として、標記のプログラムを新たに企画しましたのでご案内いたします。本プログラムの趣旨、運営方法、プログラムの概要、講師の紹介などについて、案内書を添付しましたので、ご検討いただきたく存じます。

本プログラムは2024年6月28日(金)16:00～17:00に初回開催の予定です。

貴施設の教育担当部門による教育プログラムとして、ご活用を検討くださいますようお願い申し上げます。なお、本プログラムへの参加費は無料です。

## 『医療施設への看護研究支援および人材育成支援を目的とするプログラム』のご案内

### 1. プログラムの趣旨

看護基礎教育の大学化から 30 余年を経た現在、看護系大学と臨床現場との期待されていた積極的な相互交流は、付属病院を有する一部の大学と医療機関に限られてしまいました。積極的に展開されていた相互交流は、今では廃れてしまったように思えます。臨床現場では「看護研究を的確に指導できる人材不足」が深刻であると言われ、看護の質向上を牽引できる人材育成が急務とされています。これに伴い、医療現場の看護系大学に対する期待は高まっていますが、一度廃れた交流や信頼関係を再び取り戻すのは容易ではなく、連携づくりの入口から始めなくてはなりません。

岡田ら（2020）は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、岩手県下の医療施設看護部門ではスタッフを院外研修に派遣する企画、あるいは院外講師を招いて院内研修を企画する機会が減少している現状を明らかにしました。こうした現状分析から、2021 年より Zoom を活用しながら、岩手県内にあって都市部の大学教育機能にアクセスしにくい沿岸部の医療機関を対象に、看護研究支援をスタートさせました。看護研究支援と看護コンサルテーションを並行させ、2021 年から 2023 年の間、1 医療施設に 3 年間継続して支援（看護スタッフの看護研究支援、副看護師長と看護師長へのコンサルテーション）し、2023 年には新たに参加施設を迎えて看護研究支援を行い、現在 2 施設を対象に看護研究支援と看護コンサルテーションを継続しています。

2024 年度も 2 施設との連携協力を継続予定ですが、この度、相互の信頼関係に基づき安定的に継続してきた看護研究支援と看護コンサルテーションの活動を、本学の「地域貢献事業企画」に新に組み入れ、再スタートすることになりましたので、ご案内させていただきます。

岡田実・長南幸恵・佐藤つかさ（2021）、岩手県沿岸部にある医療機関と看護系大学の新たな連携の構築—ICT を活用した看護研究支援プログラムのニーズ調査、岩手保健医療大学 2020 年度学内共同研究に採択

岡田実・長南幸恵・佐藤つかさ・長谷川幹子（2022）、岩手県沿岸部にある医療機関の看護部に対する ICT による地域貢献—継続した看護研究の支援プログラム提供の可能性について、岩手保健医療大学 2021 年度学内研究発表会にて報告

### 2. プログラムの運営方法

プログラムは以下の要領で運営いたします。

(1) 月 1 回開催し、勤務時間内の 1 時間をプログラムに充てます。

☞原則 16：00～17：00 の 1 時間です。開催時間帯は施設の事情に対応可能です。

(2) 参加希望者は職場推薦（看護部長様）を受けてください。（書式 1）

☞1 施設あたりの看護研究題名は 4 題を上限といたします。1 題について共同研究者は 2 名までとします。

(3) 参加者は事前に参加申込書（書式 2）に必要事項をご記入のうえ、参加してください。

(4) 毎回のセッションは、大学の研究室と施設のスペース（会議室やカンファレンスルームなど）を Zoom で接続して行います。インターネット接続料金と Zoom によるオンライン・ミーティングを開催できる PC・関連機材は自己負担とさせていただきます。

☞Zoom への接続料金は大学が負担します。Zoom による指導についてお問い合わせがある場合、実際に

Zoom を接続してうえで詳しく説明することができますので、ご相談ください。

(5) 開催当日は、看護研究に取り組む看護スタッフに看護部看護研究担当者の方が同伴できるようにしてください。

☞このプログラムは、研究指導を「肩代わり」するものではありません。研究のプロセスに取り組む参加者と研究指導担当者の双方を支援することを目的としています。

(6) このプログラムへの参加者は、研究計画書の作成、データ収集・分析・考察、スライドによる院内でのプレゼンテーションまで取り組むことになります。

☞研究計画書作成に留まるのではなく、データ収集と分析・考察のプロセスを経て、実際の看護実践に適用し評価できるようにしてください。更に求めがあれば、学会発表、学会誌への投稿までの一連のプロセスも支援します。

(7) 毎回の記録は作成しませんが、お求めがあれば Zoom で録画したものを USB にインストールして、施設にお届けできます。この際の USB の郵送料はご負担願います。

(8) 毎回の Zoom による応答の他、参加者とのメールによるやり取りも可能です。

### 3. プログラムの概要（連続 10～12 回開催）

以下に、看護研究支援のプロセスを年間スケジュールに示しました。施設によって支援回数や支援内容に調整を要する場合は、その都度ご相談ください。病棟異動が済み研究参加者が決定した6月からプログラムを開始予定です。

また、人材育成プログラムでは育成したい人材を選出し、そのグループや個人が病棟や病院の問題・課題を抽出し、その解決策を策定し、実行に移した結果を評価するプロセスを通じて育成を図ろうとするものです。概ね以下の看護研究支援と類似したプロセスをたどると考えられます。仕事にはリサーチの機能が含まれており、このプロセスを通じてプロフェッショナルの成長と育成が図られると考えております。

月別	研究をめぐる主な活動	支援の内容(6月～3月)	回数
4月	院内異動	院内で研究参加者を募る	
5月	研究参加者の決定	今年度1年間、研究に取り組むメンバーを決める	
6月	研究テーマを決め研究の問いを立てる	研究メンバー間で何を明らかにするために研究するか、看護実践にどのように貢献できるかについてディスカッションする	①
7月	文献を検討し研究計画書を作成する	研究課題に関連した先行文献を検索し、研究計画書を作成する	②
8月	院内倫理審査委員会に申請する	作成した研究計画書を研究倫理審査委員会に申請し審査を受ける	③
9月	データ収集に入る 質問紙調査 インタビュー調査 事例研究など	研究計画に基づきデータを収集する ・質問紙調査の基本統計量や自由記述内容などの定性的情報を収集する ・ICレコーダに録音したインタビューを逐語録に起こす ・患者の診療方法や看護記録から治療・看護の経過をま	④

		とめる	
10月	収集したデータを整理し結果にまとめる	収集したデータを分析する ・ 質問紙で収集したデータを多面的に分析する ・ 逐語録から研究テーマに関連するコード、サブカテゴリ、カテゴリを抽出し命名する ・ 治療と看護の経過を要約しながら、事例に提供された看護の特性を記述する	⑤
11月	考察を積み上げる	結果に基づいて他の研究知見を対比させながら、研究の問いにしたがって考察する	⑥
12月	スライドを作成する	研究全体の流れを「目的と意義」「結果」「考察」「結論」「看護への示唆」の順にスライドに作成する	⑦
1月	研究発表を行う	スライドを用いて院内で発表する	⑧
2月	学会に発表する	学会の規定にしたがって抄録を作成する	⑨
3月	学会誌	学会誌の投稿規程にしたがって論文を作成する	⑩

#### 4. 講師紹介

今でこそ Zoom によるオンライン・ミーティングは当たり前ですが、本プログラムの講師はコロナ禍以前の 2014（平成 26）年より、全国に散らばる大学院生の指導、精神看護専門看護師コースに在籍し都内の精神科病院で実習に励む院生の指導に、コミュニケーション・ツールとして Zoom をフル活用してきました。

この時期、Zoom の利用者は世界の 4% に留まっており、Skype などに比べて全くマイナーなツールでした。1 対 1 で対面するリアルな意思疎通が可能で、画面共有や録画機能においても Zoom は他の追随を許さない「優れもの」でした。交通費や宿泊費を必要としない高いコストパフォーマンスを誇り、遠隔地の大学院生や臨床家と直に繋がり、抄読会や研究指導を行ってきました。ICT を活用し全国の人々と繋がるプラットフォームを確立する活動においては、7・8 年先を先駆けてきたと自負しております。

現在も病院の看護部と Zoom による看護研究指導や中堅管理職者とのコンサルテーションを展開し、岩手県では 3 年目を迎えました。ICT を活用した臨床現場と意見交換の経験を蓄積しております。単発の研修では、お互いの実践を見つめ直すには十分ではありません。連続した積極的な意見交換がなければ効果が得られないとの考えから、今回、標記のように連続したプログラムを企画しました。

##### (1) 学歴

弘前大学教育学部卒業、弘前医療技術短期大学部卒業、放送大学大学院文化科学研究科総合文化プログラム環境システム科学群修了（修士（学術））、北海道医療大学看護福祉学研究科看護学専攻博士後期課程修了（博士（看護学））

##### (2) 職歴

青森県立つくしが丘病院看護班長、県立青森高等看護学院教務主任、青森県立精神保健福祉センター主幹、弘前学院大学教授、長野県看護大学大学院教授、岩手保健医療大学大学院研究科長

##### (3) 主な著作など

岡田実：暴力と攻撃への対処－精神科看護の経験と実践知、すびか書房、2008

岡田実：ナイチンゲールの女性論ーラスキン，J.S.ミル，ガマーニコフとの比較から〔所収：ナイチンゲールはフェミニストだったのか，31-76 頁，日本看護協会出版会，2021〕

阿保順子・岡田実・東 修・那須則政，共著：統合失調症急性期看護学ー患者理解の方法と理論にもとづく実践，すびか書房，2021

マーティン F. ウォード著，阿保順子・田崎博一・岡田実・佐久間えりか共訳：精神科臨床における救急場面の看護，医学書院，2003

岡田実（2006）：精神科病院における攻撃と暴力に関する予測と対処ー精神科看護師の臨床経験の観点から，精神科治療学，21（8）；841ー846

岡田実（2007）：精神科病院における患者の暴力と攻撃行動に対する看護介入技術に関する研究，日本精神保健看護学会誌，16（1）；1ー11

岡田実（2007）：暴力と攻撃行動に対処する精神科看護実践の技術的諸相ー「読みと見極め」および「身体準備性」について，弘前学院大学看護紀要，2（1）；9ー22

## 5. 看護部長様をお願いしたいこと

- (1) 本プログラムへの参加を勧めたい方がいらっしゃいましたら，以下の書式1にある『医療施設への看護研究支援および人材育成支援を目的とするプログラムへの推薦状』にてご推薦ください。
- (2) 同時に，参加者ご本人は書式2の『医療施設への看護研究支援および人材育成支援を目的とするプログラムへの参加申込書』にご記入いただき，書式1と一緒に，本プログラム講師宛（[mokada@iwate-uhms.ac.jp](mailto:mokada@iwate-uhms.ac.jp)）に添付文書にしてお送りください。
- (3) 折り返し，本プログラムへの参加承諾書をお送りします。
- (4) プログラムへの参加に伴い，参加者の勤務にご配慮くださいますようお願いいたします。
- (5) 参加要件などについてご確認等ございましたら，講師宛にメールでご相談ください。

## 6. プログラム開始時期について

本プログラムの初回は，本年6月28日(金)，16:00~17:00を考慮しております。したがって，今回のプログラムへの参加申込みは，6月14日(金)正午までといたします。

書式1 『精神科中堅看護師のためのリスクリング・プログラム』への推薦状

書式2 『精神科中堅看護師のためのリスクリング・プログラム』への参加申込書